

到達目標の可視化による英語力向上の取組み

島内直英

Improving student achievement by visualizing the target test score

Naohide Shimauchi

1 はじめに

新しい学習指導要領導入を機に、2020年度から大学入学試験に導入される予定であった民間試験の活用が中止となった。一因として、新たに出題される予定であった記述問題による「書く」、「話す」の測定での客観性が担保されないという疑念のためである。今後の英語力評価の在り方や外部検定の活用で期待されていることをまとめてみる。

大学入学共通テストで受験可能とされた試験は、表1のとおりである。これまで、高校生が受験していたのは、実用英語技能検定試験とGTECではなかろうか。新たな民間試験活用にともない、高校現場は慌ただしく対応を迫られた。米国留学に不可欠な

TOEFL、大学入試向けに登場したIELTSなどに加えて、大学卒業後にビジネス分野で必須とされ、企業によっては、600点を採用条件とするところも出てきたTOEICも認知を高めてきた。大学の英語教材では、TOEICの目標スコアを付したものが多く、どうせ就活に必要なならば、早めに高校から取り組もうという考えもでてきたようである。

受験地、受験回数、検定料なども情報がなかなか公開されず、受験する側の学生・生徒は対策に困惑していたというのが現状ではないだろうか。

1979年に始まった「共通一次試験」以来、マークシートによる英語力評価が実施され、多肢選択問題での学力評価は広く活用されており、英検、TOEIC、GTECなどとの相関も公表されている。2015年に英語検定協会が公表した「大学入試センター試験との相関調査」によると、英検2級=センター試験151点である。TOEICでは英検2級=510~530点、英検準1級=TOEIC710~730点であるとする分析¹もある。

これまでの、リーディングとリスニングだけの試験にも、スピーキングとライティングを加えようという流れが出てきた。この背景には、何といても、ヨーロッパ言語共通参照枠、**CEFR**（セフアール）Common European Framework of Reference for Languagesのガイドラインの存在がある。導入される検定試験は、CEFRの基準によって、A1、A2、B1、B2、C1、C2の6段階に分類されている。評価には、厳格な評価基準がないといけないのであるが、実施上の課題はないのだろうか。

2016年11月に京都教育大学で、教育支援協会主催のシンポジウム「大学入試が変わる時」が開催された。当時の文部科学省事務次官と大学入試センター副所長がパネリストとして参加したパネルディスカ

表1 日経新聞 2018/3/26

大学入試共通テストで受験可能な英語の民間試験

| 名称 | 種類 | 検定料（税込み） | 国内の年間受検者（人） |
|------------|---------|---------------------|-------------------------|
| ケンブリッジ英語検定 | 8 | 9,720~ 25,380円 | 非公表 |
| 実用英語技能検定 | 5 ※1 | 5,800~ 16,500円※2 | 340万 |
| GTEC | 4 | 6,700~ 9,720円※2 | 102万 |
| IELTS | 1 | 25,380円 | 3.7万 |
| TEAP | 2 | 15,000円 | 2.5万 |
| TOEFL | 1 | 235米ドル | 非公表 |
| TOEIC | 1 | 15,985円 | 250万（聞く、読む）、3.2万（話す、書く） |

（注）大学入試センターの資料などから作成

※1 全員受けられる「話す」試験を新たに導入する

※2 今後変わる可能性がある

セッションの中で、高校生を受検者に見立てた今後の試験の在り方が提起された。スクリーン上の動画による外国人からの音声出題に、高校生がヘッドセットで回答するというものであった。評価を均質なものにするために、動画を保存して、後でまとめてから評価するというものであった。学校現場でのALTの出身国が多様であることからすると、動画の音声を聞きなれた国の英語で選択できるようにすることが望ましいと思ったが、振り返ると現在当たり前となりつつあるComputer Based Testing (CBT) の幕開けを暗示する実験であった。

2 地域貢献活動事例1： 高大連携の必要性と成果

筆者は、2016年以來、九州ルーテル学院大学の教育改革・研究助成金を活用して、英語教育を通じた地域貢献の取り組みを模索している。

2018年からは、県立A高等学校の学力向上の試みを支援する形で、英検2級問題集の活用法研究の取り組みを始めた。それまで、英語教諭個人々の取り組みであったA高校で、過去問題冊子を教師集団が共通して活用することにより、上位級の取得者が年度を追うごとに、確実に上昇することを確認した。

A高校H28年入学生の英検2級の取得率は、前年の約8%から約19%へと倍増している。H29年には、指導体制の統一を図ったことで、約30%の取得率となっている。A高校への支援と同時にその地区の中学3年生にも、英検3級問題集を提供した。A高校の入学生は、同校周辺の中学生がほとんどであることも、好結果に結びついた遠因と判断している。校種を越えた連携の必要性を再確認した。(注：図1と表2の資料は、A高校が作成したもので、受検者の取得割合。)

教師集団が共通の資料を活用したことと、指導方針が一貫したことが成果を挙げた要因である。また、生徒が冊子を必ず持参するようになり、目標に取り組むようになったことも報告を受けた。この取組は、県の英語研究会でも発表され、その後、本学の併設高校も含め、複数の学校での協同した取組みへと拡大継続している。

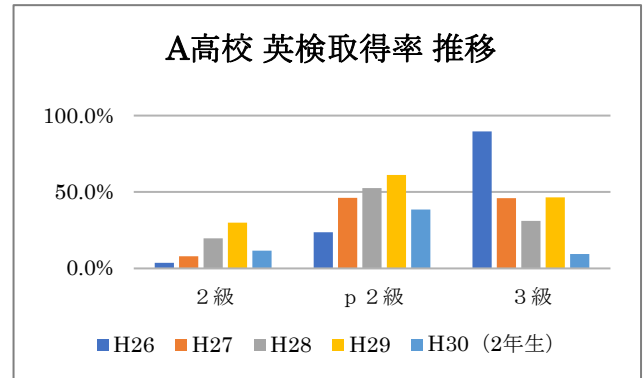


図1

表2 英検2級 取得級割合(卒業時)

| 入学年度 | 2級 | p2級 | 3級 |
|----------|-------|-------|-------|
| H26 | 3.6% | 23.6% | 89.6% |
| H27 | 7.9% | 46.1% | 45.9% |
| H28 | 19.7% | 52.5% | 31.0% |
| H29 | 29.9% | 61.0% | 46.4% |
| H30(2年生) | 11.5% | 38.5% | 9.4% |

2019年からは、県立B高校で、面接カードを複製して面接試験対策に使用することを支援している。面接カードは、旺文社発行の過去問題集に収録されている面接で使用される縮刷版カードを実物大に拡大コピーして使用している。

B高校の先生方からの経過報告について、簡条書きで報告を受けた。

- ・2級、準2級での二次試験合格率上昇はわずかであったものの、3級では、1次試験合格者が2次面接に合格する率が、71%→92%となった。カラー面接カードを用いて練習を行ったこと、面接カードを用いて毎学期スピーキングテストを実施したことで、生徒にとってはスピーキングへのハードルが下がり、英語で話すことに抵抗を感じなくなっている。
- ・先生方にとっても、面接カードがあったために、準備に慌てる必要もなく、働き方改革にも大変役に立ち重宝した。
- ・スピーキングテストの導入が進む中、カラーの面接カードがあることは、学校現場においてはとても有用感が高い。
- ・カラー面接カードの方が、人物の動作や場面描写に臨場感があり、使用する生徒のモチベーションに対してもより効果的であった。
- ・2018年と2019年の3級合格率の違いは以下の図2

と表3の通りである。

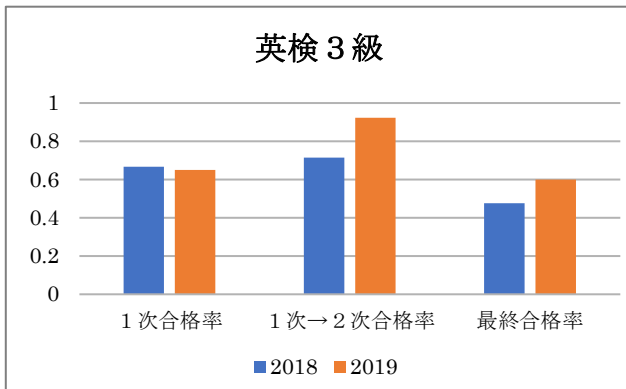


図 2

表 3

| 3級 | 1次合格 | 2次合格 | 合格率 |
|------|------|------|-----|
| 2018 | 67% | 71% | 48% |
| 2019 | 65% | 92% | 60% |

3 地域貢献活動事例 2 : 小学校と高校の連携の実践

2016年当初に地域貢献で取り組んだのは、小学校英語活動で使う絵カードやアルファベットカード作成であった。免許更新研修を担当することとなり、

どのようなものが現場では求められているかを調べてみた。ベネッセ教育総合研究所の資料では、**教材の不足や予算不足**があることに気づいた。当時の小学校は、英語活動であり、学びよりも国際理解に力点があった。なかなか使用できる教材が少ないという意見が多いようであった。

また、更新研修の感想からは、先生用指導教科書の不在を指摘する声があった。現場でも、「活動あって、学習なし」という状況が好ましくないという声があり、児童の学びのための教材がどのようになっているのかを調べてみた。

調査の過程で、自治体国際化協会HPの外国語指導助手用教材のサイトで、英語指導に使える教材を見つけた。これを辿っていくと、旺文社のサイト「ハピラボ」というところに、実に多くの絵カードがあった。残念ながら現在では公開していない。幸いダウンロードしていたので、使用上の注意を遵守し作成している。また、東京都教育委員会にある指導案3時間～4時間相当があった。これをもとに、実際に使えるように指導案を改善している。

2019年熊本市内のB高校で、近隣の3つの小学校との交流事業として、写真1に示す絵カードでの授業が企画された。小学校でも教科「英語」が入り、指導は原則担任がすることとなった。高校生がリトル・ティーチャーとして小学生と触れ合いをする

資料 小学校英語の実態と課題を探る -ベネッセ教育総合研究所 BERD 2006 No7

- 2006年実施 全国公立小学校教務主任 3503名 回収率35.0% -

| 英語教育の現状 | 十分である | どちらかといえば十分である。 |
|----------------|-------------|----------------|
| 使いやすい教材 | 1.6% | 22.2% |
| 指導のためのカリキュラム | 1.9% | 19.9% |
| 使える予算 | 0.5% | 9.3% |
| 英語教育に関する教員研修 | 0.7% | 7.5% |
| 教材の開発や準備のための時間 | 0.7% | 4.8% |



写真 1

いう活動である。絵カードについては、本学で作成していたものを提供した。

このような活動を通して、想定外のことが高校生にも起こった。小学校訪問前に、高校生が英語の発音習熟に、積極的に取り組んだのである。

全国的に中等教育諸学校や小中一貫校の設立が進んでいる。小学校での教科担任制が、「算数」、「理科」に続いて「英語」も導入されるような潮流となっている。熊本県にも英語専科の先生が、20名以上配置されている。2020年に実施された熊本市・熊本県の教員採用試験では、合格後の配置が小中いずれにもなる可能性が明記してある。今後は、小中の連携の深まりが一層求められる。地域での交流活動の一例として紹介したい。

B高校からは、1～3年生の74人が参加した。卒業生を除く、在籍中の61名のアンケートは以下のとおりである。小学校からも、交流継続の希望が寄せられている。

- 1 小学生との交流事業に参加した理由
 - ① 英語を教えることに興味があったから 43%
 - ② 先生に勧められたから 16%
 - ③ 友達に誘われたから 36%
 - ④ 特になし 5%
- 2 参加した感想
 - ① 楽しかった。 82%
 - ② 絵カードを使って英語を教えることができた。 11%
 - ③ あまり楽しめなかった。 0%
 - ④ もっと英語の勉強をしないといけないと思った。 7%
- 3 機会があれば
 - ① また参加したい 79%
 - ② 参加したくない 3%
 - ③ わからない。 18%
- 4 困ったこと、苦労したこと。(自由記述)
 - ・小学生は、元気がよすぎた。
 - ・小学生が英単語をよく知っていたり、発音が上手だった。
 - ・ゲームを通して、小学生の視点や考え方など理解できた。
 - ・教え方を工夫するのが難しかった。
 - ・消極的な子への声かけに戸惑った
 - ・先生たちの授業への苦労や工夫が判った。

- ・もっと英語の勉強をしないといけないと思った。
- ・教える立場になるので、発音などに気を付けた。

4 大学に求められる変化と課題

キャリア・イングリッシュ専攻では、TOEIC700点や英語検定準1級の取得を勧めているもののなかなかチャレンジする学生が少なかった。2014年～2017年で、英検準1級の取得者は、カナダの短大卒業後の編入生1人であった。2015年入学生から英検2級取得の相談を受けて、毎週過去問をコピーして配布するようにした。学生は、多いときには週2回ほど学習するほど貪欲に取り組み、7月には2級を取得した。その後も順調に英語力も伸び、3年次4カ月留学を経て、9月に英検準1級を取得した。このことが、同期生にも好影響を及ぼした。11月に1人、1月に1人、4年次にもう1人と合計4人の合格者を出した。

そこで、これまでの高大連携の成果を、大学生の学習へ応用すればいいと考えた。小学校教員養成の児童教育コースでも、新学習要領で、英語力向上が望まれていることもあった。また、保育コースの分野でも、外国人の子どもの入園が珍しくない時代である。同コースでは保育英語検定などへの取組も始めることになった。

高大連携の成果は、学生への目標の提示と教材の提供が必要であることは明白であった。2018年には、準1級の過去問集を冊子にして、1、2年生希望者に配布した。すると2019年にも、3年生で3人が合格し、2020年2月には、1年生も1人合格している。

熊本県内の中学校では、英語検定受検料の補助が取組まれている。県と各自治体からそれぞれ1/3補助されている。いくつかの自治体では2/3の補助するところもある。しかし、それほど受検者数の伸びが増えていないようである。受検料の補助と同時に、学習者への目標を示し、目標に応じた指導体制の確立が必要であると考えます。

大学のグローバル化が叫ばれて久しい。九州ルーテル学院大学でも、海外留学は増加傾向にあるものの、外国人留学生の獲得はなかなか進まず、大学全体のグローバル化が課題となっている。地道な語学力育成が必要である。現在、年間2回実施しているTOEIC・IP受験料半額を補助したり、優秀賞、奨励

賞を設定して、学長賞を授与している。一方、英語教員免許取得の条件にTOEICスコアを設定したり、一部の英語教科の成績に反映したりすることで活用している。

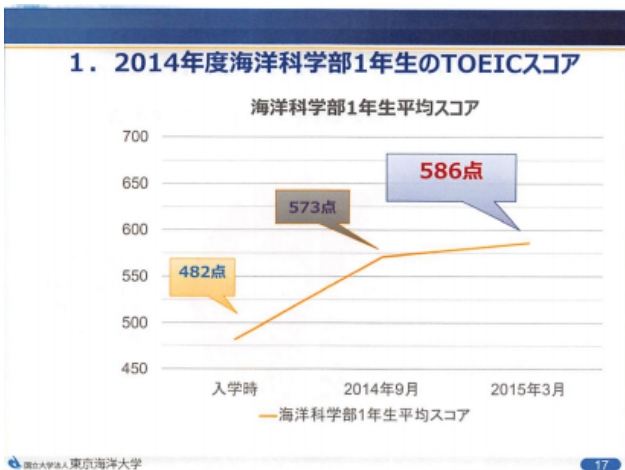
平成26年度から、学部3年次での進級要件にTOEIC最低600点を課すことにした表4の東京海洋大学の取組みは参考にすべきものである。同大学は、文部科学省の指定を受け、教員の加配等により、英語の授業改革に取り組んでいる。同大学の説明によれば、この到達目標の可視化により、受験生の獲得にも成果をあげ、大学全体のTOEICスコアも向上している。東京海洋大学の取組みを調べる中で、学生自

身が自分たちの英語力を知り、目標を持って語学学習に取り組むことが大切であり、学校も学生の全体像を示すことが大切なことに気づいた。学生の語学力と学校の状況を公開することも大切である。

5 大学のグローバル化を志向する

学生と教員共通の目標づくりが必要である。これまで、本学の状況はどうなっているのか分析した資料は無かった。データは保存されているので、本学にある2013年～2020年までのデータを分析(図3参照)することにした。経年変化や年次比較をすることで、実態が判ってきた。入学年度による英語力の違いや、学年を追った個人の伸長度なども具体的にわかってきた。

表4 東京海洋科学部 資料



① 2013年～2019年の推移 太枠の中

TOEICは、毎年1回目を7月に、2回目を1月に実施している。グラフは、2013年入学生6回から、2019年入学生の3回目までを表5にしている。データの太枠部分。

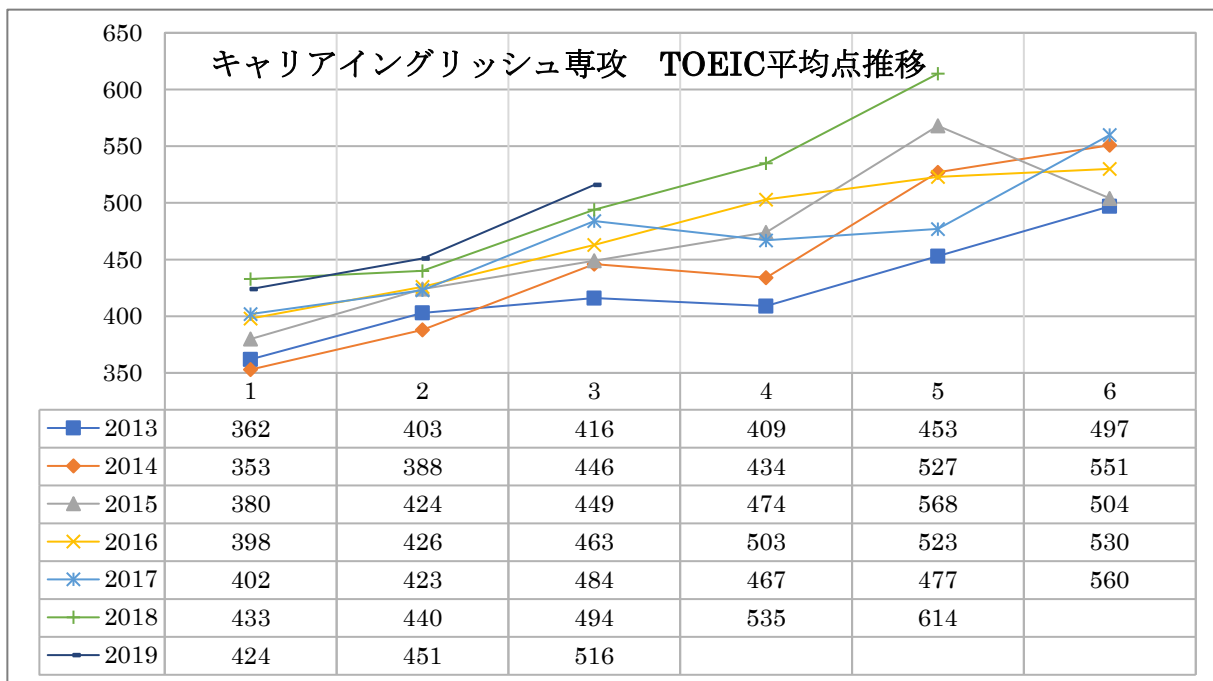


図3

表5

| 入学年度別 平均点推移 | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 入学年度 | 1年1回 | 1年2回 | 2年1回 | 2年2回 | 3年1回 | 3年2回 | 4年1回 | 4年2回 |
| 2011 | | | | | 437 | 490 | 494 | 651 |
| 2012 | | | 430 | 444 | 472 | 556 | 535 | 567 |
| 2013 | 362 | 403 | 416 | 409 | 453 | 497 | 525 | |
| 2014 | 353 | 388 | 446 | 434 | 527 | 551 | 583 | 636 |
| 2015 | 380 | 424 | 449 | 474 | 568 | 504 | 667 | 765 |
| 2016 | 398 | 426 | 463 | 503 | 523 | 530 | 691 | |
| 2017 | 402 | 423 | 484 | 467 | 477 | 560 | | |
| 2018 | 433 | 440 | 494 | 535 | 614 | | | |
| 2019 | 424 | 451 | 516 | | | | | |
| 2020 | 476 | | | | | | | |

| 入学年度別 受検者数 | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 入学年度 | 1年1回 | 1年2回 | 2年1回 | 2年2回 | 3年1回 | 3年2回 | 4年1回 | 4年2回 |
| 2011 | | | | | 34 | 22 | 9 | 7 |
| 2012 | | | 44 | 41 | 40 | 27 | 11 | 10 |
| 2013 | 42 | 40 | 41 | 38 | 25 | 30 | 2 | |
| 2014 | 41 | 38 | 37 | 34 | 22 | 24 | 2 | 4 |
| 2015 | 40 | 41 | 40 | 38 | 15 | 10 | 3 | 1 |
| 2016 | 41 | 37 | 39 | 35 | 28 | 26 | 8 | |
| 2017 | 43 | 43 | 44 | 42 | 27 | 14 | | |
| 2018 | 44 | 44 | 42 | 43 | 12 | | | |
| 2019 | 47 | 45 | 49 | | | | | |
| 2020 | 44 | | | | | | | |

- (1) 2017年以降は、1年次から400点を超えている。
- (2) 2019年入学生は、2年次1回から500点を超えている。
- (3) 2020年入学生は、1年次1回から前年を50点上回っている。

② TOEIC 500以上の人数



図4

表 6

| TOEIC SCORE 500以上 | | | | | | | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 入学年度 | 1年1回 | 1年2回 | 2年1回 | 2年2回 | 3年1回 | 3年2回 | 4年1回 | 4年2回 |
| 2011 | | | | | 8 | 11 | 4 | 4 |
| 2012 | | | 13 | 14 | 18 | 20 | 8 | 8 |
| 2013 | 4 | 6 | 7 | 7 | 6 | 11 | 2 | |
| 2014 | 5 | 8 | 13 | 8 | 14 | 15 | 6 | |
| 2015 | 7 | 10 | 12 | 13 | 8 | 5 | 2 | |
| 2016 | 7 | 8 | 15 | 16 | 15 | 15 | 7 | |
| 2017 | 6 | 13 | 22 | 18 | 13 | 10 | | |
| 2018 | 11 | 11 | 17 | 25 | 15 | | | |
| 2019 | 12 | 15 | 27 | | | | | |
| 2020 | 15 | | | | | | | |
| TOEIC SCORE 700以上 | | | | | | | | |
| 入学年度 | 1年1回 | 1年2回 | 2年1回 | 2年2回 | 3年1回 | 3年2回 | 4年1回 | 4年2回 |
| 2011 | | | | | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 2012 | | | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| 2013 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| 2014 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | |
| 2015 | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | |
| 2016 | 0 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 5 | |
| 2017 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 3 | | |
| 2018 | 3 | 2 | 3 | 5 | 3 | | | |
| 2019 | 1 | 1 | 5 | | | | | |
| 2020 | 1 | | | | | | | |

③ 準1級取得者の追跡調査からわかること。

表 7

| | 1年1回 | 1年2回 | 2年1回 | 2年2回 | 3年1回 | 3年2回 | 4年1回 |
|---|------|------|------|------|------|------|------|
| A | 490 | 630 | 700 | 785 | 850 | | |
| B | 560 | 555 | 620 | 630 | | 785 | 730 |
| C | 560 | 570 | 710 | 720 | | | 810 |
| D | 430 | 475 | 570 | 635 | 700 | 685 | |
| E | 445 | 490 | 555 | 520 | | | 820 |
| F | 445 | 480 | 505 | 535 | 750 | | |
| G | 700 | 805 | 790 | | | | |

(4) 準1級取得者7名のTOEICスコアの推移を調べてみると、必ずしも入学時から高いスコアをとっているわけではなく、入学後の学習によって向上するようであり、伸長の度合いも個人差がある。短期間で急激に伸びる学生もいるが、なかなか伸び悩む学生もいる。努力する学生たちは、最初のテストから、200点～300点くらいは、向上するようである。

(5) 準1級取得者7名の内、4名は1年1回では、500点以下であることからすると、学生の取組によっては、2倍くらいの取得者がいると仮定してもいいようである。

6 おわりに

大学入試でも、単純な英文和訳は減り、一定量の英文の要約を求めたり、自分の考えを英文で表現するなどの形式のものも増えている。いわば、「正解のない」問題であり、その評価基準は個別の大学や検定にゆだねられている。英語を書いたり、話したりする分野の客観的な評価は始まったばかりである。

これまで実施されている民間検定の面接試験では、検定の種類や、級によって異なる形式もある。各試験の評価基準を知ることが、受検対策の一歩である。一般的に、面接では課題文を読んだり（発音、区切り、イントネーションなどの評価）、絵の説明（内容の描写力）、そして、面接官と英語での質疑がある。

これらの部分は、なかなか自学できない部分であり、
具体の練習をすると効果があるようである。

今回の調査から判ったことを、学生や教師陣とも
情報を共有しながら、大学の学びの在り方を充実さ
せたいと願っている。

引用資料

- 1 「TOEICと英検比較まとめ」
<https://toiguru.jp/toEIC-and-eiken> 2020年9月14日